

2020年度 全学教務委員会報告

| PLAN(計画) KPIとしてベンチマークも入れてください。 | DO(実施) | | CHECK(評価) | | ACITON(次への改善) |
|---|---|---------------|-------------------------------|-----------------|---|
| P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。 | D:計画を実行しその効果を測定する。 | 実施状況 (実施率) | C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。 | | A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる |
| ①ベンチマーク結果などを基にした教育改善 高等教育の修学支援新制度や私立大学等改革総合支援事業への対応を念頭におき、さらなる教育改善を実践していく。特に退学率については、教学IR委員会との連携をもって分析を行う。なお、全学生数に占める退学者の割合は、4%以内を目標とする。特に、1・2年生の退学者の割合を下げる努力を行う。学年ごとにみた退学率の目標値(過去3年間の実績から算出)は、1年生:4.3%、2年生:5.8%、3年生:3.1%、4年生:2.6%である。各科目のナンバリングについては、早々に全学統一のルールを作成し、2021年度から運用を行う。 | ・教務部(全学教務委員会)におけるKPIを、退学率と授業満足度と設定して、データの分析・共有 | | 評価 | 評価の理由/課題/根拠データ等 | 個人面談などを通して、正課外活動を含めた生活実態についても把握し、個別の対応を学部・学科の特性に合わせて行う。コロナ禍での授業においては、対面・オンライン授業が混在するため、臨機応変に、そして細やかな対応を行う必要がある。 |
| ②学修状況調査の実施・分析 学修状況調査は継続して実施し、教学IR委員会との連携をもって分析を行い、その分析内容を教育改善に活かす。なお、大学全体としてみた授業満足度は、75%以上を目標とする。そのためにも、1～3年生における授業満足度を上げる努力を行う(目標としては73%以上)。 | 学修状況調査は前年度との結果を比較するために、全学年を対象に同じ項目で実施 | | 評価 | 評価の理由/課題/根拠データ等 | 経年的変化を追う意味でも、学修状況調査は基本的にはここ2年と同じ質問項目で実施する。実施後には、教学IR委員会への分析依頼を速やかに行う(データを集約した教職員から直接、分析担当者に送信する)。 |
| ③学修ポートフォリオの実施・分析 | DPの到達度を確認する目的で学修ポートフォリオを用いて学生の自己評価、教員からのフィードバック | | 評価 | 評価の理由/課題/根拠データ等 | 全学教務委員会での報告からすると、実施率が低い学部・学科も散見されるため、学部・学科ごとに周知・実施の方法を検討する。 |
| ④PROGテストの実施・分析 PROGテストは継続して実施し、その分析内容を教育改善に活かす。 | PROGテスト 1、3年生を対象に実施 | | 評価 | 評価の理由/課題/根拠データ等 | 回答率をあげるための対策を、学部ごとに検討して実施する(基本的には対面での実施)。実施後には、教学IR委員会への分析依頼を速やかに行う(データを集約した教職員から直接、分析担当者に送信する)。 |

| PLAN(計画) KPIとしてベンチマークも入れてください。 | DO(実施) | | CHECK(評価) | | ACITON(次への改善) |
|---|--------------------|---------------|--|-----------------|---|
| P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。 | D:計画を実行しその効果を測定する。 | 実施状況 (実施率) | C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。 | | A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる |
| | | | 評価 | 評価の理由/課題/根拠データ等 | |
| ⑤基礎学力テストの実施・分析 | 基礎学力テストの実施 | | 外国語学部、経営学部の基礎学力テストは、PROGテスト及びSPIテストは郵送で実施、TOEICはオンラインで実施した。また人間学部、保健医療技術学部においては、すべて郵送で行った。学部・学科で実施している内容(科目)が異なるため、学部間の比較・検討は不可能である。 | | 経年的変化を追う意味でも、基本的には同一科目(内容)で実施する。実施後には、その結果については、プレイメントテストとして利用の他に、初年次教育科目やゼミ等において、基礎学力を高めるための情報として利用する。とくに成績の低い結果を示した学生に対しては、個別支援も検討する。 |
| ⑥公開授業実施 各学部において、運営内容などの再検討を早々に行い、全学教務委員会で情報交換を行う。また、アンケート結果については当委員会で共有する。 | | | 外国語学部、経営学部、保健医療技術学部においては、オンライン授業公開を行った。人間学部では前年度の成果を継続するため、祝日の開講日に対面での公開授業も一部で実施した。また、学科分科会における遠隔授業の取り組みについての説明内容に関しては、高い満足度が得られた。 | | 学部の特性に応じた実施方法を検討し、継続的に実施する。また、アンケートなどによる出席者の意見を、教育改善に反映させる。 |
| ⑦「国際化に対応した地球市民の育成」、「永久サポート大学」実現に向けた対応 | | | 「Society5.0」も念頭におき、情報リテラシー教育の強化、さらには数理・データサイエンス・AIに係る科目の開講に関する全学的に検討を、全学学士課程教育委員会で開始した。卒業生に対するリカレント教育体制の構築が必要であるが、新型コロナウイルスの影響が大きく検討に及んでいない。 | | 情報リテラシー教育の強化、さらには数理・データサイエンス・AIに係る科目の開講を、全学的に検討する(全学学士課程教育委員会との連携)。またリカレント教育については、在校時に学修した専門領域に限らず、幅広い教養を修得するためのサポート体制を検討する。 |

2021年度 ⑩ 全学教務委員会(教務部)

| PLAN(計画) | DO(実施) | | CHECK(評価) | | ACITON(次への改善) |
|---|--|-----------|-------------------------------|-----------------|-------------------------------------|
| P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。KPIとしてベンチマークも計画に入れてください。 | D:計画を実行しその効果を測定する。 | 実施状況(実施率) | C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。 | | A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる |
| | | | 評価 | 評価の理由/課題/根拠データ等 | |
| <p>①ベンチマーク結果などを基にした教育改善 全学生数に占める退学者の割合は、昨年度と同様に4%以内を目標とする。特に、2年生、4年生の退学者の割合を下げる努力を行う。学年ごとにみた退学者の目標値(過去3年間の実績から算出)は、1年生:3.9%、2年生:5.6%、3年生:2.7%、4年生:3.2%以下である。 各科目のナンバリングについては、今春より運用を開始する。 なお、次年度より「②学修状況調査の実施・分析」も、この項目内に包括する。</p> | <p>教務部(全学教務委員会)におけるKPIである退学者と授業満足度を学部・学年ごとに調査し、教学IR委員会の協力を得てデータの分析を行う。また分析結果を、教務部として共有し、次年度の教育改善に活かす。</p> | | | | |
| <p>学修状況調査は継続して実施し、その分析内容を教育改善に活かす。なお、大学全体としてみた授業満足度の目標は、2019年度の結果を目安として70%以上とする。そのためにも、授業方法の検討・改善を学部の教務委員会を中心に展開する。</p> | <p>*学修状況調査の実施・分析は、「①ベンチマーク結果などを基にした教育改善」の項目内に包括する。</p> | *** | | | |
| <p>②学修ポートフォリオの実施・分析 学修ポートフォリオに関する意識向上を、学生・教員に対してはたらきかける(学部単位で)。また、実施率の調査も合わせて行う。</p> | <p>DPの到達度を確認する目的で実施する学修ポートフォリオは、学生の自己評価、教員からのフィードバックともに100%を目指して、はたらきかける。</p> | | | | |
| <p>③PROGテストの実施・分析 継続して実施し、その分析内容を教育改善に活かす(対面での実施を基本にして)。</p> | <p>PROGテストを1年生と3年生を対象に対面で実施し、教学IR委員会の協力を得てデータの分析を行う。また結果については、学部ごとに活用方法を検討する。また、PROGテストを継続して実施するかについても、検討する。</p> | | | | |
| <p>④基礎学力テストの実施・分析 継続して実施し、その分析内容を教育内容に活かす。</p> | <p>基礎学力テストを、入学後早期に実施する。その結果については、学部・学科ごとに活用する。</p> | | | | |
| <p>⑤公開授業実施 運営方法・内容などの検討を学部ごとに行い、全学教務委員会で情報交換を行う。また、アンケート結果については当委員会で共有し、教育改善に反映させる。</p> | <p>学部ごとに公開授業を実施する。アンケート結果は教務部で共有し、次年度の教育改善に活かす。</p> | | | | |
| <p>⑥「国際化に対応した地球市民の育成」、「永久サポート大学」実現に向けた対応 各学部・学科で、カリキュラム改変、卒業生に対するリカレント教育体制の検討を行う(教務委員会を中心に)。</p> | <p>各学部・学科で、カリキュラム改変、卒業生に対するリカレント教育体制の検討を、学部教務委員会を中心に行う。また、研究推進作業部会と連携した共同研究の可能性について、検討を行う(卒業生の就職先や実習先など)。</p> | | | | |